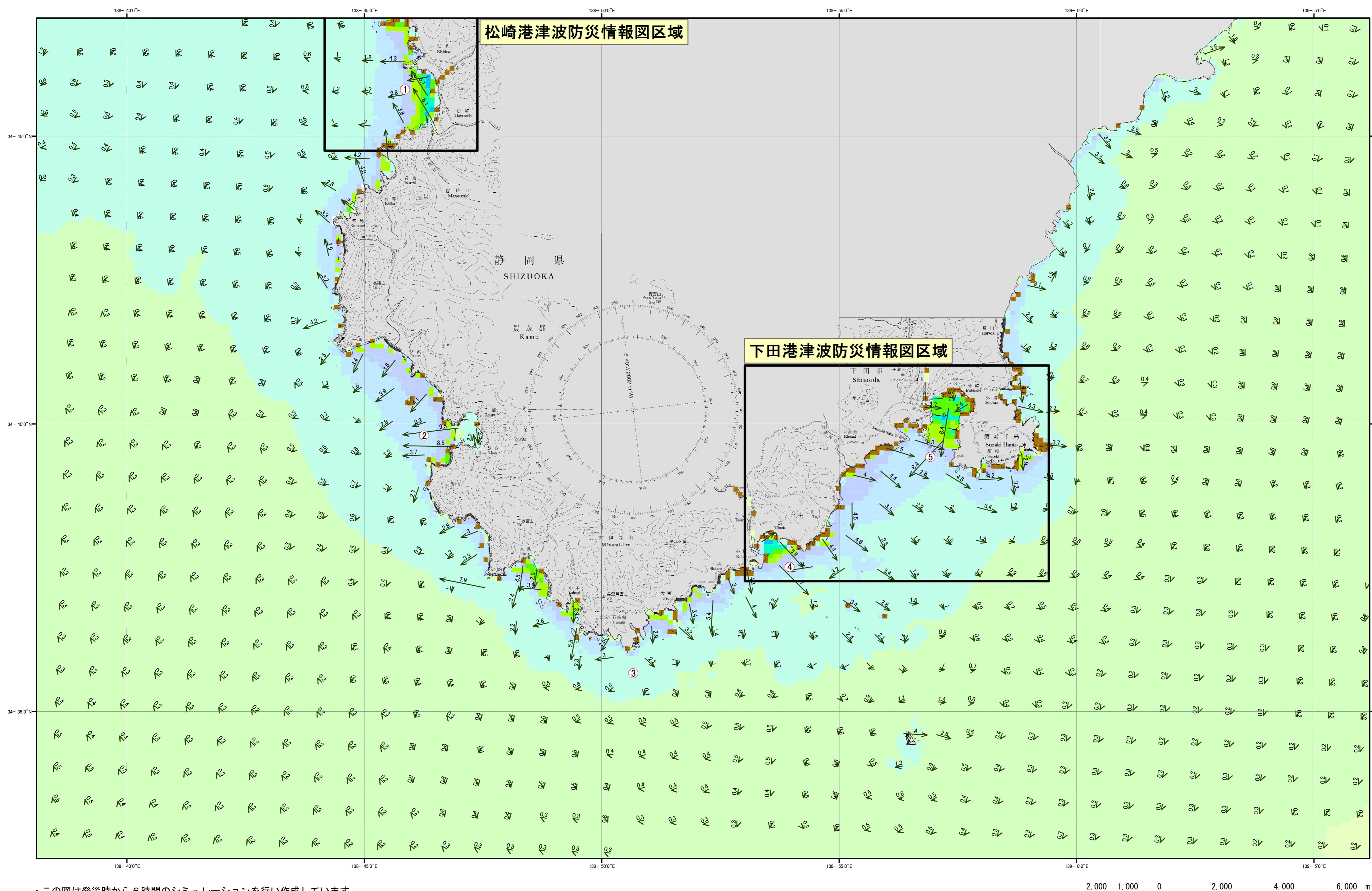


## 想定東海地震による伊豆半島南部津波防災情報図広域版（引潮）

計算条件：最低水面・150mメッシュ

隆起量：平均5cm(1cm~39cm)

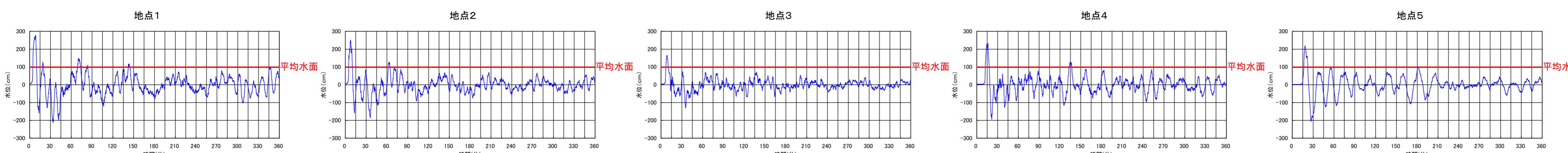
この図は150mメッシュで計算した津波の概要版であり、港湾内や沿岸域の情報は必ずしもシミュレーション結果が正確に反映されていません。なお、「津波防災情報図」(50mメッシュで計算)が整備されている海域はそれを参照してください。



- この図は発災時から6時間のシミュレーションを行なっています。
- 最大大流矢印は、6時間のシミュレーション時間から150mメッシュ7\*7個(1050m\*1050m)の49個から最大のものを表示しています。
- 表示されている流速矢印は津波による流向・流速を示しており、海潮流の要素は考慮されていません。
- 津波の到達時間は、水位が10cm上昇した時点を算出しています。
- 経時変化図(水位変動のグラフ)は最低水面を基準面として、6時間の津波の水位変動を表示しています。時間による潮汐の変化は考慮されておらず、津波は計算条件の基準面に収束します。
- 経時変化図に記載されている赤線は、潮汐が無いと仮定したときの水面(平均水面)を現しています。
- 陸部の情報は海図から採用しています。
- 計算に使用した地形データは、海上保安庁海洋情報部のJ-EGG500、J-BIRD、沿岸の海の基本図地形データ及び海図を作成する際の基礎データを使用しています。

この地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、国土地理院発行の数値地図50mメッシュ(標高)を使用したものである。(承認番号平:15総使、第672号)

経時変化図：図上の位置における津波の挙動を時系列で示す。

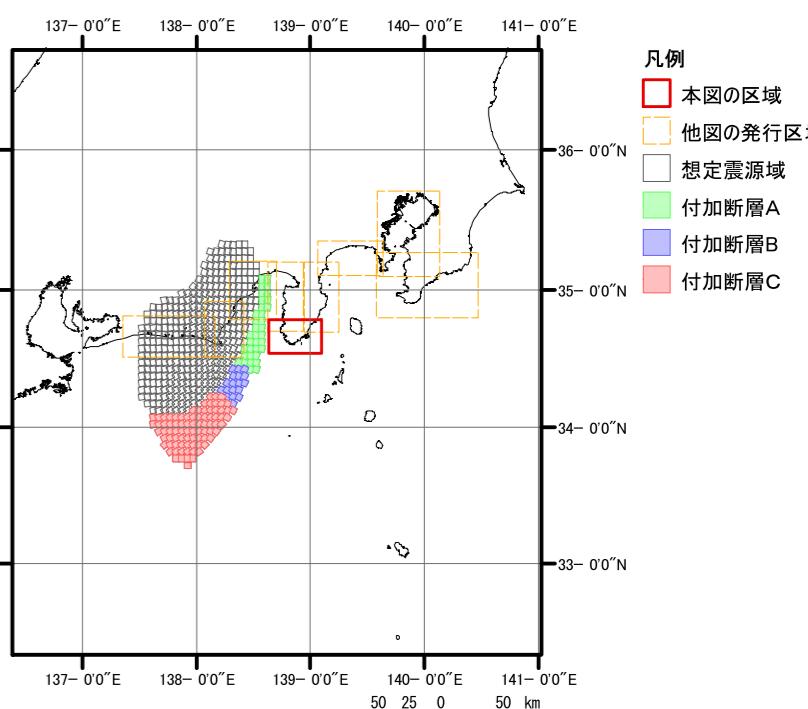


### 凡例

|             |          |
|-------------|----------|
|             | 露出域      |
|             | 経時変化図出力点 |
|             | 最大水位低下   |
| 400~最大444cm |          |
| 350~400cm   |          |
| 300~350cm   |          |
| 250~300cm   |          |
| 200~250cm   |          |
| 150~200cm   |          |
| 100~150cm   |          |
| 50~100cm    |          |
| 50cm未満      |          |

引潮時最大流 (knot)  
→ 6 knot  
→ 4 knot  
→ 2 knot

本図の区域及び想定震源域と付加断層の位置



|       | 中央の概位             | 中央の深さ  |
|-------|-------------------|--------|
| 想定震源域 | 34°45'N, 138°02'E | 1.9 km |
| 付加断層A | 34°45'N, 138°30'E | 4 km   |
| 付加断層B | 34°15'N, 138°20'E | 6 km   |
| 付加断層C | 34°00'N, 138°00'E | 7 km   |

本図は、中央防災会議「東海地震に関する専門調査会」(平成13年12月11日)で公表された断層モデルを使用した。